

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作
めあて

こがね色のはたけでえっちゃんや牛と出会う場めの音読のくふうを考えよう。

牛のようす

○きつねとにているところ

- ・赤いぼうしをちよこんとかぶっている。
- ・すましてこたえた。
- ・しぶしぶぼうしをぬいで見せた。

○ちがうところ

- ・野原 — こがね色のはたけ（場しよ）
- ・青い空をまぶしそに見上げていた。

— 白いすきをもつてプープーふいていた。（ようす）
はたなかもうこ — のはらこんきち （名前）

「へんねえ。」

読み

へんねえ。（きつね）
・さつきまではぼくの名前だったんだけどなあ。
・なぜ「はたなかもうこ」と書いてあるんだろう。

- ・ふしぎだなあ読み
- ・こまったなあ読み
- ・なきそう読み

へんねえ。（えっちゃん）
・また名前が変わってる。
・なんでみんな同じぼうしをもってるんだろう。
・あたしのぼうしだと思っただけどなあ。
・ほんとうに牛さんのかなあ。

牛がぼうしをかぶっている挿絵

【6 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑥
活動のねらい

四の場面の会話文の音読の工夫を話し合うことで、えっちゃんときつねの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

○ 前時の場面では、えっちゃんの帽子をかぶり、名前のししゅうも変わっていたことを想起させ、本時のめあてを確かめる。

2 こがね色の畑でえっちゃんが牛と出会う場面（四の場面）を音読し、音読の工夫について自分で考える。

○ 板書を参考に、三の場面と四の場面では、場面の展開が似ていることを押さえた上で、違いを発表させ、繰り返しの構成になっていることに気付かせる。

○ 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。

○ 会話文以外の地の文にも着目させ、えっちゃんときつねの会話文の音読の工夫を考えさせる。

【発問】えっちゃんときつねの「へんねえ。」はどのように読んだらよいでしょう。
※ だれがどの言葉を会話として話しているか、学級全体で確かめることも重要でしよう。

3 音読の工夫について話し合う。

○ まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

○ 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。その中でえっちゃんやきつねの行動や様子に目を向けさせていく。また、帽子をかぶった牛の様子から、きつねと同じように牛もぼうしを返す気がないことに気付かせる。

4 話し合ったことを基に、えっちゃんときつねの気持ちを想像する。

○ ワークシートの吹き出しに、「へんねえ。」に続くえっちゃん、きつねの言葉を書かせる。

評価 えっちゃんときつねの気持ちを想像して、吹き出しに書いている。（イ1）

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

○ 板書を参考に場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
○ 次時は、五の場面前半を学習することを知らせる。